

ほんのもり



No.9 2024. 1

富岡中学校図書館
学校司書 村木加津

～富岡中学校図書館だより～

3学期が始まりました。今年の目標は立てましたか？3学期は短くあっという間に過ぎてしまいます。進学、進級に向け有意義な学校生活を送りましょう。



～図書館からのお知らせ～

★冬休み前に借りた本は 19日(金)
までに返却してください。



～今年辰年～

今年初の
おすすめ本だよ～！

『はてしない物語』 ミヒヤエル・エンデ/作

読書と空想が好きなバスチアンは、ある日いじめっ子に追い回され古本屋に逃げ込んだ。そこで、あかね色の本を目にし興味を抱く。お金を持っていなかったため本を盗み学校の物置で読み始めるのだった。本の世界では…幼ごころの君が支配する「ファンタジーエン」が正体不明の〈虚無〉におかされ滅亡寸前。それを救うために、緑の肌族アトレューは、幸いの竜フッフルなどと出会い「救い主」を探す旅に出る。救い主は人間界から子どもを連れてくるほかない。そしてその子はあかね色の本を読んでいる10歳の少年…ぼくのことだ！叫んだとたんバスチアンは本の中にすいこまれる。映画化された長編ファンタジー。

小寒 一月六日から二十日頃のこと。「寒の入り」と呼ばれ、いよいよ寒さが厳しくなってきました。「小寒の寒げいこ」が寒さに耐えながら技術の向上と精神を強く鍛えるために行われます。気合を入れても寒そうですね。

どんど焼きどんどと雪の降りにけり
小林一茶
(注)どんど焼きは正月の松飾りやしめ飾りなどを持ち寄って燃やす行事。火の勢いが盛んだと喜ばれ一年健康で過ごせるように願う。

『ドラゴン桜』 里見蘭 三田紀房/原作

倒産寸前の高校に対して、桜木弁護士が出した救済措置は、東大合格！平均偏差値30台の高校には無謀な提案だが、これは、桜木自身の崖っぷち人生への挑戦でもあった。桜木は、なぜそこまで燃えるのか？謎に満ちた桜木の人生を、ここに暴く！！

“ドラゴン桜”は、桜木が校舎の中庭に植えた桜の木に龍山高校の龍の字をつけて“ドラゴン桜”と名付けた。そして『来年の春、東大合格を果たしてドラゴン桜に満開の花、咲かせよう』と…。

学習図書委員会からのお知らせ

『運だめし今年もすてきな本に出合おう！』

本の福袋大放し！

1月26日(金)から図書館に本の福袋を置きます。早い者順で、その福袋の本を借りることができます。どんな本が入っているかは、借りてからの楽しみです。

さあ、図書館に来て是非、本の福袋を借りてみませんか？

借りれるのは、ひとり1つです。また、福袋がなくなり次第終了となりますので、借りたい人は、お早めに！！

学習図書委員大賞・投票結果！！

多くの方が投票してくれました。ありがとうございました。



1位「あの星が降る丘で君とまた会いたい（汐見夏衛）」627円

2位「小説 フルーロック（もえぎ桃）」814円

3位「ラーゲリより愛をこめて（辺見じゅん）」726円

4位「余命10年（小坂流加）」682円

5位「犯人のいない殺人の夜（東野圭吾）」792円

6位「スパイ教室（竹町）」715円

7位「幼なじみが絶対負けないラブコメ（二丸修一）」693円

8位「あかね色の空に夢を見る（吉川結衣）」660円

お詫び 3位の「ラーゲリより愛をこめて」は品切れのため購入できませんでした。投票してくれたみなさん、ごめんなさい。

『今月のおすすめ本』



* 本の内容紹介は各出版社商品紹介などから抜粋

『もしも紫式部が大企業のOLだったなら』大鏡篇 井上ミノル/著

長い歴史を持ち、日本を代表する大企業・株式会社 内裏商事。同社副社長・彰子の秘書で、人気同人小説『源氏物語』の作者でもある紫式部は、広報部に異動し社史『栄花ストーリーイズ』をウェブ連載している同僚・赤染衛門に執筆協力を依頼される。社内で絶大な権力を握る取締役&筆頭株主・藤原道長常務に気を遣いつつ、読者が喜ぶ魅力的な連載にするために資料を探そうと社史編集室を訪れた式部たちが出会ったのは、謎の老人3人組だった。教科書で習いはしたけど親近感はまるでわからなかった千年前の貴族たちですが、ちょっとは身近に感じてるかもしれませんよ。

『凹まない100の習慣』 工藤孝文/著

「ずっとしんどい」「なんだかわからないけど調子が悪い」「気持ちが沈みがちでやる気が湧いてこない」「不安とイライラがとまらない」自分でも気付かないうちにさまざまなことを我慢しているのです。もっとがんばらなくては……。そんなふうに考えて無理をしている人が多いのではないのでしょうか。この本をパラパラとめくってみてください。そこに書かれていることは意外なほどシンプルで簡単なことばかり。試しに目にとまった項目を実践してみてください。どんな状況でも「凹まない」自分をつくりましょう。きっと人生を好転させることができるはず！

『つる子さんからの奨学金』 まはら三桃/著

女子ゆえに進学に苦勞した曾祖母つる子。つる子はこほんといつ咳払いをして言った。「奨学金をだすことにしたよ。」「ただし、それにはひとつ条件があるよ」つる子はぴしゃりと告げた。条件は、今より実力のひとつ上の学校を目指すことだった。高校受験とバレエ部の両立、応援し心配する親からのプレッシャーに悩みながらも、わかばは挑戦するおもしろさを感じていく。

『タイムマシンに乗れないぼくたち』 寺地はるな/著

一人ぼっちのつもりだった。だけどそうじゃなかった……。人知れず抱えている居心地の悪さや寂しさ。そんな感情に寄り添い、ふと心が軽くなる瞬間を鮮やかにすくい取った短編7つが収録。

表題になっている「タイムマシンに乗れないぼくたち」は、新しい街に越してきて馴染めない「ぼく」は、太古の生物が好きで、博物館が唯一落ち着く場所だった。ある日、博物館で“現実逃避”をしているスーツ姿の男性と出会い心を通わせていくお話。寺地はるなさんの小説は、受験問題にもよく出題されています。